

CS推進員、教育委員会・学校のCS担当者のための
きのくにコミュニティスクール推進戦略会議

1. 日 時 令和元年10月11日（金） 9時30分～15時00分

2. 場 所 高野山大学

3. 参加者 CS推進員、市町村教育委員会担当でCSを推進していく立場の方
県立学校においてCSを推進していく立場の方
県教育委員会内のCS推進関係者

合計30名

4. ねらいと成果・課題

・管内のコミュニティ・スクールの効果的な推進体制の構築や、各学校運営協議会の取組が活性化する手法等について

「CS推進協議会の活動の活性化」「地域や保護者への普及と支援について」など、コミュニティ・スクールを推進するうえで参加者が課題と感じていることに対して、講師先生に解決するためのヒントをいただいた。さらに、参加者にとって、今後取り組んで行く方向性が明確になった。

・コミュニティ・スクールを推進する立場の人がつながり、ネットワークを構築することについて

県内各地でコミュニティ・スクールを推進していく立場である参加者が、普段の活動の中で課題と感じていることを共有し、情報交換を行った。また、今回の研修会は参加者同士や参加者と講師先生との距離間が近いこともあり、参加者同士がつながり、ネットワークを構築する第一歩となった。

5. 内 容

◆講話 「人と人とのつながり」
高野山 大僧正 名誉住職 前官 東山 泰清 氏

高野山への歓迎の言葉と、「人と人とのつながり」について御講話いただいた。



◆講演 「密教とマンダラ～マンダラの意味するもの～」
高野山大学 教授 松長 恵史 氏

「自利利他」

自利…自分の能力を高めるために努力すること

利他…人の役に立つために行うこと

この2つを共に両立させた状態にすることを理想とする。



◆ミーティング

「きのくにコミュニティスクール推進上の課題
～日々の実践において解決したい課題は?～」

文部科学省初等中等教育局視学委員
三鷹市教育委員会 教育長
山口県教育庁義務教育課やまぐち型地域連携教育推進班 主査
文部科学省CSマイスター

貝ノ瀬 滋 氏
相田 康弘 氏

ミーティングの前半は、3つのグループに分かれて、参加者それぞれが活動している中で、コミュニティ・スクールを推進するうえで課題と考えていることを共有した。後半は、参加者から出された2つの課題に対し、講師先生にアドバイスをいただいた。



◆パネルディスカッション

「コミュニティ・スクールの戦略的活用
～地域とともにある学校を実現する仕掛けづくり～」

コーディネーター：和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課
パネリスト：文部科学省初等中等教育局視学委員

佐武 範一

三鷹市教育委員会 教育長
山口県教育庁義務教育課やまぐち型地域連携教育推進班 主査
文部科学省CSマイスター

貝ノ瀬 滋 氏
相田 康弘 氏

パネルディスカッションの前半は、貝ノ瀬先生、相田先生に講演をしていただいた。後半は午前中に引き続き、「学校内で課題と思うこと」「地域への普及や地域との関わり方」など、参加者から出された課題をテーマに分けて、解決するためのヒントをいただいた。



「各学校運営協議会の取組が活性化するための手法、大事にしたいこと」

学校運営協議会は、

- ・教育委員会が任命した組織であり、合議体である
- ・事前に打ち合わせを行い、協議内容と報告内容に分けてメリハリをつける
- ・校長ではなく、会長等が進行していく
- ・CS便りなどで学校運営協議会で協議したことや取組を地域の人に発信し、「地域ぐるみで育てる」という意識を高める

「市町村におけるコミュニティ・スクールの効果的な推進体制の構築」

- ・きのくにコミュニティスクールを導入し始めて3年目となる。法律の意味を正しく理解し、「何のために」「何を目的に」取り組んでいるのか考える時期になってきている
- ・学校・家庭・地域が単なる連携するのではなく、これからの教育や将来の子供、地域の未来のために学校運営協議会を合議体とした会をめざす
- ・9つのキーワードを中心とした推進

◆推進戦略プレゼン

「きのくにコミュニティスクールの推進戦略

～今日の学びから得た明日からの目標と新しい実践～」

参加者が本日の研修会を通して学んだことや明日からできることを決意表明的に書き出し、参加者同士で共有した。



6. 参加者の声（アンケートより）

（1）心に残ったキーワード

- ・「自利利他」
- ・「原点に戻る」
- ・「人と人とのつながり」「コミュニティ・スクールについて広く広報」
- ・「ベクトルを合わす」
- ・「子どもの姿が変われば教員も変わる」
- ・「子供たちに『参画』させる」「人のことを喜ばば、自分の喜びも増える」
- ・「コミュニティ・スクールは新教育課程のパッケージに入っている」「コミュニティ・スクールを校長先生自身が語れるように」
- ・「学校運営協議会は、これからの教育や将来の子供たち、地域のためにある」

（2）感想

- ・難しく考え出すとなかなか踏み出せないことが多い中で、先進的な地域が「今だからこそ、原点に戻ることをしている」と聞き、それを念頭に置いてこれからのコミュニティ・スクールの仕組みを活かした取組を進めていきたい。（市町村教育委員会職員）
- ・貝ノ瀬先生と相田先生から、今後、CS推進員としてさらによりよい活動を進めていくためのヒントとして多くのキーワードをいただいた。さらに具体例もたくさん挙げていただき、より方向性を明確に考えることができた。パネルディスカッションでは、皆にあてはまるであろう内容に焦点を当ててくださったので全てが参考になった。講義形式でなかったことも、柔らかい雰囲気の中、頭に入りやすかった。たくさんのアイデアが次々と浮かび、大変プラスになった。（市町村教育委員会職員）
- ・現場の悩みとそれに対する助言という形で進められていたので、とても参考になった。立ち上げ時の苦労はもちろんあったが、どのように継続・発展させていくか、これから力を入れて取り組んでいきたい。（市町村教育委員会職員）
- ・学校運営協議会での取組を広く知らせることで、協力の輪を広めていかなければならないことがわかった。（県立学校教職員）